



Title	＜書評＞「仕事を趣味にするスゴイ本」（中山正和著, PHP, 750円）
Author(s)	納谷, 敦夫
Citation	大阪公衆衛生. 1991, 60, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83618
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『仕事を趣味にするスゴイ本』

中山正和著（PHP 750円）

単純に、お題に引かれて買って読んだ。著者は工学屋さんでNM法の開祖である。このNM法はKJ法と同様、発想法として開発されたものである。KJ法やNM法以来、この手の発想法は新しいものが出ていないらしい。

発想の基本を、大脳生理学のモデルで解釈している。アイデアを出そうとするときには、前頭葉にある計算の脳に命じられて、言葉に連結している記憶がまず動員され、分析的な発想の引き出しが開始される。とことんこれを行うと、もう何も出ないというところに至る。ここまでくれば、岡潔流にいうと、寝ればよいらしい。すると今度は、子供の時に刷り込まれた命を守る脳に直結した記憶に引きずられて、言葉と結ばれていないイメージ記憶が働いて、トンネルを抜けるがごとく解決策が爽然と現れる、らしい。キキュレのベンゼン環しかり、湯川秀樹しかりである。

このような発想の真っ最中がいわゆる仏教でいうところの三昧で、時空を越える。法華経の世界やアインシュタインの相対性理論が登場するのだが、あまりに論理的とも思えない。しかし、仏教哲学が自由気ままに解釈されていて、この手の本にしては珍しく、最後まで読んでしまう。このほか、「運の良い人、悪い人」、「創造力開発の秘術」とか、「洞察力」といった多くの著書があるが、よく似た内容となっている。ただ、軽やかに話が展開するので、二、三冊読んでも結構おもしろい。もう少ししじめな本には「NM法のすべて」がある。

ただ、本書を読んでも、仕事が趣味にならなかったのは残念。

（大阪府健康増進課精神保健室 納谷敦夫）